

平成 27 年度 第 1 回 石狩市社会教育委員の会議 議事録

日 時 平成 27 年 5 月 26 日 (火) 午後 2 時～ 3 時 20 分

会 場 石狩市公民館 第 1 研修室

出席者 委員長：木村 純 副委員長：大橋 修作

委 員：安部紀江、加藤丈明、相馬 保、石井 量子、山田 治己、小條 智英美、福士 志穂、
宮田 あゆみ、大黒 利勝、平 紀子、高橋 美恵子

事務局：生涯学習部長 百井 宏己、生涯学習部次長 東 信也

社会教育課：主査 斉藤 晶、主査 須藤 洋一、主査 富川 雅枝、主事 本庄 あゆみ

社会教育主事：西山 隆之（兼社会教育課主任）

傍 聴 無し

会議内容

1. 社会教育委員、社会教育関係職員自己紹介およびあいさつ
2. 委員長あいさつ

木村委員長：みなさん新しいメンバーも含めて、これから石狩市の社会教育をますます発展させていくためにご審議、ご協力をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

3. 報告

木村委員長：

それでは、報告案件として、会議出席報告をいたします。平成27年度石狩管内社会教育連絡協議会総会が4月27日、恵庭市民会館で行われ、私と西山社会教育主事が出席しました。私は今年度の監査の役にあたっており、石狩管内社会教育委員連絡協議会の会計監査をおこなったところ、適正に処理されておりました。

報告として昨年度の事業報告、議題として平成27年度活動方針と事業計画、収支予算案、役員改選などがありました。特に大事なこととして、平成29年度の第59回全国社会教育研究大会を、私たち全道各地の社会教育委員が中心になって開催することになっており、その準備を進めるということが今年一番大きなことであります。また、今年度の第54回北海道社会教育研究大会は、10月22日、23日に浦河町で開催されますが、全国大会を準備する上でもその全道社会教育研究大会が大事な役割を担っていると思います。

4. 議事

- (1) 平成 27 年度石狩市芸術文化振興奨励補助金交付対象事業について

須藤主査：

平成27年度石狩市芸術文化振興奨励補助金について説明いたします。4月24日の募集締切までに3件の応募がありました。

「石狩市芸術文化振興奨励補助金」は、「芸術・文化の振興を図るため、市民が自主的、主体的におこなう芸術文化活動費の一部を補助・支援」する制度になっております。

本補助金交付要綱の第5条において、補助金を交付しようとするときは、あらかじめ社会教育委員の会議の意見を聞くものとしていることから、本日の会議において、ご審議をお願いするものです。

なお、補助金の支出上限額につきましては、補助対象経費の2分の1以内、かつ1事業あたり500千円以下となっております。それでは、資料の計画概要一覧にて説明いたします。

1件目は、事業名「歌一華15周年記念の集い」、事業者はカラオケ同好会歌一華、代表者は会長 児玉良一氏です。実施時期は平成27年6月7日、会場は花川北コミュニティーセンター、一般市民360人の集客を見込んでいます。

団体の活動としては、歌や舞いを趣味とする仲間が集まり、カラオケ同好会として毎月1回練習をしており、その成果を毎年発表しています。結成は、平成12年6月、会員数は25人。規約及び役員を整えており、団体要件として問題はありません。社会教育関係団体にも登録をしております。

補助対象基準としましては、当該補助金の交付要綱で定めている区分のうち、芸術文化活動振興事業（1）に該当します。事業費は310千円で、このうち補助対象経費としては、会場費、事務費など合計で150千円、補助金要望額は75千円です。補助金交付額は、補助対象経費の1/2以内であるという基準を満たしていることから、要望額通り、75千円を交付内定額案として提案させていただきます。

次に2件目です。事業名は「石狩文芸同好会40周年事業」、事業者は石狩文芸同好会、代表者は会長 樋口博氏です。実施時期は、平成27年6月7日から9月30日です。6月7日から13日まで作品展、7月6日にトーク&コンサート、9月30日に記念誌の発行となっております。展示会とトーク&コンサートは石狩市民図書館を会場として予定しています。対象は一般市民、トーク&コンサートで150人、展示会で500人の集客を見込んでいます。

団体の活動としては、短歌や俳句などの文芸を楽しみ、心豊かな文化の創造と発展に資することを目的に活動しており、毎月例会を実施、3ヶ月に1回季刊誌を発行、毎年市民文化祭と公民館まつりに参加しています。結成は、昭和50年1月19日、会員数は16人です。規約及び役員を整えており、団体要件として問題はありません。また、文化協会加盟団体でもあります。

補助対象基準としましては、当該補助金の交付要綱で定めている区分のうち、芸術文化活動振興事業（1）に該当いたします。

事業費は420千円で、補助対象経費は、事業費と同じく420千円となっております。補助金要望額については210千円となっております。これらの経費については、補助金交付額は、補助対象経費の1/2以内であるという基準を満たしていることから、要望額通り、210千円を交付内定額案として提案させていただきます。

次に、3件目です。事業名は『『浜益の碑』刊行事業』、事業者は石狩市郷土研究会、代表者は会長 村山耀一氏です。実施時期は、平成27年7月1日～平成28年9月30日です。団体の活動としては、会誌「いしかり暦」を年1回刊行、例会の開催のほか、古文書勉強会を年10回行っています。結成は、昭和35年3月30日、会員数は31人です。規約及び役員を整えており、団体要件として問題はありません。社会教育関係団体にも登録をしております。

補助対象基準としては、当該補助金交付要綱で定めている区分のうち、文化財保護・保存推進事業（1）という区分にあたります。文化財の保護・保存等を図ることを目的とする事業に該当し、本補助金交付要綱第5条において、「文化財保護・保存推進事業に係わるものにあつては文化財保護審議会の意見を聞くものとする」としていることから、当社会教育委員の会議のほかに、後日開催される文化財保護審議会からも意見を聞くことになっております。

事業費は492千円で、内訳は、記載のとおりとなっております。また、補助対象経費については、文化庁の文化芸術振興費補助金から50千円の収入を見込んでおりますが、本補助金交付要綱の第3条第2項で「国、北海道、その他の団体が行う補助及び石狩市が行う他の補助の対象となったものは、補助対象経費から除く」と定めているため、事務費と調査費を補助対象外とし、442千円を補助対象経費としております。補助金要望額については200千円となっておりますが、補助金交付額は、補助対象経費の1/2以内である、という基準を満たしていることから、要望額通り、200千円を交付内定額案として提案させていただきます。

以上、説明を終わらせていただきます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

木村委員長：ありがとうございました。2件目の石狩文芸同好会のトーク&コンサートについては、有料ではなく、無料ということでしょうか。

須藤主査：原則無料です。ただし、募金をつのり、全額東日本大震災への寄付を予定しているようです。

木村委員長：有料にすると補助対象経費にならないのでしょうか。トーク&コンサートで、たとえば入場料を一人1,000円にすると、入場料収入分は補助対象から外れることになりませんか。

須藤主査：いいえ、補助対象外にはなりません。

木村委員長：有料にしても良いのでしょうか。

須藤主査：それは大丈夫です。その分、自己財源での支出負担分が減ることになります。

木村委員長：このコンサートは、どのような方をお呼びするのか決まっているのでしょうか。

須藤主査：伊達市噴火湾文化研究所の大島直行所長を講師としてお呼びする予定になっています。また、コンサートについては、札幌交響楽団のコンサートマスター、大平まゆみ氏を予定しているとのことです。

木村委員長：他に質問等がなければ、提示案については異議なしということによろしいでしょうか。

委員一同：異議なし。

(2) 平成27年度社会教育委員の取り組みについて

木村委員長：

私のレジュメが配られていると思いますが、平成25～26年度については、石狩の地域課題について、委員の皆さんが中心になって、6回の講座をおこない、報告書を作成して、これを基に、平成27年度からの石狩市教育プラン後期基本計画に反映させるための取り組みや、教育委員のみなさまとの懇談などを行ってまいりました。そういった点で、社会教育の大切さなどを、色々な方たちにより知っていただくことができましたし、また私自身も勉強になり、大変良い機会を作れたのではないかと思います。そして、前回の社会教育委員の会議でも提案させていただきましたが、平成27年度、あるいは次の平成28年度を含めて、石狩市の地域課題についてもう一步踏み込んで、今度は具体的に課題を明らかにしていくような、ワークショップのような学習の場を設けてはどうかと提案させていただきました。

今日は、具体的には厚田区の地域づくりと社会教育というテーマで、ワークショップをしてはどうかということを提案したいのですが、実は、8月の4日から6日まで、北海道の社会教育主事講習の一環として、道内の自治体職員や学校の先生が、20日間位の日程で、北海道教育大学主催の社会教育主事講習を受けるのです。毎年30名位の受講者がおりまして、私もお手伝いしてきた経緯があります。社会教育委員の古村先生が、北海道教育大学での社会教育主事講習の責任者の一人で、古村先生は今まで恵庭市をフィールドにして、二泊三日位の日程で、恵庭で色々と聞き取り調査や見学をしてきたのですが、一貫して、石狩で開催してはどうかと考えておられました。ただし、受講生と道職員や教育大の先生を含めると、40人近い方が泊まれる宿泊施設が石狩市には無いこともあり、これまで石狩市で実現できませんでした。しかし今回、宿泊しなくとも、札幌から通いで実施できる見込みが立つ

高橋委員：石狩で初めての道の駅ですので、どのようにできるのか興味があります。

木村委員長：厚田区の方たちが道の駅についてどのような話し合いをしていて、どのようにしたいと考えているのかなどについても、きっと報告していただけるのではないのでしょうか。

大黒委員：平成30年度には完成するという想定で、地域協議会が立ちあがっておりまして、道の駅だけではなく、それに付随した総合的な施設も含めて今考えております。素晴らしい施設ができるのではないかと、楽しみにしております。

高橋委員：美術館も出来るといいですね。

木村委員長：行政の職員の皆さんにも非常に努力していただいているのですが、まちづくりについては、既に厚田の地域の皆さんが一生懸命話し合われていて、そこに割り込むような形になりますので、その点は十分理解していただいて、むしろ厚田の皆さんが今どのような話し合いをしていて、どのようなことが求められているのか、例えばもっと石狩全体の応援を求めているのか、などの点を知るところを目的とした学びの場を私たちで作っていくことが、提案の趣旨です。8月4日の準備として、まず私と古村委員でパネラーの方々にヒアリングを行いますが、厚田に行く時期と、誰に会うかを皆さんにお知らせしますので、都合がつけば各グループからお一人ずつご同行いただき、ヒアリングを実施できるとありがたいと思います。グループに分かれた後の本格的な作業は、パネルディスカッションでの話し合いの内容も踏まえて、補足的なヒアリングを10月までに実施していただき、その結果を元に10月にみんなで集まって話し合うという手順を進めたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

高橋委員：漁業のパネラーは決まっていないのですよね。

木村委員長：名前については候補が出ておりますが、正確には決まっておりません。まだパネラー全員に了解を得ておりませんが、これまでは佐藤さんと河合さんに出させていただいております。佐藤さんは交通補助の分野で話をさせていただきましたが、厚田区地域協議会の会長ですので、地区全体のことを話させていただきました。厚田での昼食も大変美味しく、漁業もとても盛んであることは、口ではわかっておりますが、頭ではわかっておりませんので、そういう話をもう少し聞きたいと思っておりますね。4月に厚田支所の職員の方にお話をうかがった際、漁業の分野では、今一生懸命地域のことを考えている中井さんという方がいらっしゃるそうで、お母様と息子さんのどちらにお願いしてもよいのではと考えておりますが、いかがでしょうか。

山田委員：確かに石狩市の地域課題というものは、現実にはたくさんあります。例えば花川北の空き家の問題などもそうです。ただ、厚田、浜益の地域課題として考えてみると、真っ先に浮かぶのは、人口減少問題ですね。人口減少問題と社会教育も、本来的には行政が取り組まなければならない課題でありつつも、社会教育委員としても考えなければならない課題であることはわかっていますが、どのようなことができるのかと、色々考えてしまいます。例えば、「地域農業の現状」と「社会教育への期待」とは、どのように結びつくのでしょうか。農業と結びつける意義はあるのでしょうか、少し難しいのではと感じます。社会教育委員として何に取り組むのかという点が見えないのです。

木村委員長：私も、社会教育委員として具体的に今すぐに何をすべきか、社会教育事業の課題としてどのようなことがあるのかについては、まだわかりませんが、農業者の方が共同で色々な取り組みをしています。例えば、新しい作物を取り入れる学習をしたり、若い人たちをどのように組織すればよいのか、というような悩みを持ちながら、地域の農業を発展させていきたいと考えていますし、自分

たちが作った農産物を、もっと石狩市民の皆さんに食べてもらいたいと思っているかもしれません。おそらく、社会教育と結び付けられる課題は色々あると思っておりますが、むしろどのような課題があるのかを、学びを通して知ることが大切なのだと思います。

山田委員：市民カレッジでは今年初めて、浜益キャンパスという位置づけで、浜益で講座を開きます。郷土研究会会長の村山さんも浜益の碑を取り上げますが、浜益のことを浜益の人に知ってもらいたいということが、浜益で開催する理由なのです。厚田の人もそうですが、地域のことはそこに住む人でも、意外とわからないのです。先ほど委員長もおっしゃっていたように、私の場合は札幌人から石狩人になったと言えるのですが、例えば衣食一つにしても、どこに何があるかを知らないのです。そこで今回、郷土研究会で取り組むことになり、村山会長を講師にして浜益で開催するのですが、市民カレッジとしてもそのような考えを持っています。今回は浜益で開催してみて、次は厚田という方向で進めたいと考えています。

木村委員長：パネルディスカッション自体は、石狩全体に公開するという形で、地域の方たちが一緒になって厚田の課題を考える学びの場にしたいと思っています。特に反対意見がなければ、今日必ずしも決まらない方もいらっしゃるかもしれませんが、皆さんの希望に沿ってグループ分けをできればと考えております。ご希望のグループがあればありがたいのですが、いかがでしょうか。

石井委員：グループ分けというのは、資料にある、農業、漁業などということですね。

木村委員長：そうです。農業、漁業、地域協議会、地域おこし協力隊というように分けてはどうかと考えました。パネルディスカッションの最初のご挨拶は、大黒委員にお願いしたいと思っています。

石井委員：わからないことには何もできませんが、まずはやってみるのがいいと思います。

高橋委員：今回のパネルディスカッションと、その後の10月以降の動きは、年間の目標、もしくは活動計画的にはどのようなになるのでしょうか。

木村委員長：パネルディスカッションで、ある程度、厚田の課題が見えてきますので、それを基に、今度は皆さんで意見を言い合って、提案をするようなワークショップを10月以降に開きたいと考えております。農家の方たちも集まれるような時期だと良いですね。今度はみんなで厚田に行ってみようかと考えております。

高橋委員：それで今年度の取り組みは終わりでしょうか。

木村委員長：報告書も作らなければなりませんし、社会教育委員の会議自体はその後にありますので、終わりではありません。

山田委員：地域おこし協力隊の任期は3年ですよ。

東次長：はい、3年です。

山田委員：今は2年目ですね。事業は継続するのでしょうか。

木村委員長：どのようにならなければならないのでしょうか。もちろん、良い取り組みは引き継がれるのですが、それぞれの個性に基づいてやっていますので、地域おこしが目的ですが、彼等が地域に定住する

ということも目的のひとつです。一人ひとり持っている課題が違いますので、自分の能力をいかに活かすかということも重要です。私が厚田の報告会で話を聞いたときは、とても能力の高い人が地域おこし協力隊をされていて、むしろ、彼等が考えていることを社会教育委員として後押ししてあげると良いのではないかと感じました。そういうことを含めてヒアリングをしたいと考えております。

石井委員：10月までの間、どのようなスケジュールになるのでしょうか。

木村委員長：まず8月4日のパネルディスカッションで、どのようなことが話し合われたのかについて、各グループで話し合ってください、それを踏まえた上で、例えば課題について、パネラー以外の方にも話を聞いてみたいということになれば、ヒアリングを実施していただき、10月に各グループの取り組んだ結果を、全員が集まって報告していただき、ワークショップでどのようなことをテーマにするか、話し合ってくださいでしょうか。

東次長：タイミング的にも、今年はちょうど合併10周年ですので、旧石狩、旧厚田の人々が交わって、色々なことを考えていくという形は、非常にありがたい取り組みとしますので、是非積極的に話し合ってくださいと思います。ワークショップもうまく意見が出て形になると面白いものになるのではないかと期待をしています。

木村委員長：パネルディスカッションは社会教育主事講習の予算もありますので、うまく連携できればと思っています。

高橋委員：委員が4つのグループに分かれるということですね。

木村委員長：他のテーマが良いという意見があればお願いします。私は都合の付く限り、なるべく皆さんのグループの会議に参加する予定です。

石井委員：日本全国あちこちで、過疎のまちに地域おこし協力隊が入っているのですよね。今は2年目で、あと1年で成果を問われるのですよね。

木村委員長：一つのグループでは収まりきらないという方は、複数でも構いません。

相馬委員：テーマは非常にいいと思います。私は浜益在住で、厚田とだいたい同じ状況だと思いますが、地域おこし協力隊の人たちはなかなか大変なのです。浜益地区に色々な団体があり、協力隊の夫婦二人には、地域に参加して頑張ってもらっているのですが、個人的には、地域の人はまだ地域おこし協力隊のことを理解できていない部分が多くあると思います。地域の人が、こういう人が来ているということ自体も知らないのです。どのような役割があるかということも認識していないのです。それらも含めて考えると、こういう取り組みをすることは大変良いことだと思うのですが、地域の課題と地域協議会の取り組みとしては、地域住民とのつながりをもっと細かくしていかなければ、前に進まないと感じています。4つのテーマがありますが、私としては、4つ全てに入りたくらいに思っています。私は普段から浜益区の基盤、人口の推移など、浜益区の地域課題をどうするべきか、検討する必要があり、今回のワークショップのような機会で、地域課題と地域協議会の連携をどうすべきかを話し合わなければならぬと思うのです。

木村委員長：地域課題のグループは、重厚なメンバーになりましたね。古村委員と私とで、統計的なことや、行政がどのようなことをしてきたのか、データの整理をしようかなと思います。農業についても、河合さんには以前もご報告いただいて、即売など面白い取り組みをしていますね。

大橋副委員長：河合さんには、「厚田の農業の課題」についてお話しいただきました。その後の取り組みについては、地域おこし協力隊の活動と関係していると聞いております。

木村委員長：例えば、農家や漁師の子どもの様子などについて、話を聞いていただいてもいいです。跡継ぎのことなどを中心にお話を聞いていただいてもいいと思います。私と古村委員は、メンバーが足りないグループを担当しますので、どれか一つ選んでいただければと思います。できれば皆さんにいずれかのグループに入っていただいて、話し合いをしていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

地域おこし協力隊というものは、やはりそれぞれ自分の持っているネットワークや能力、知識、好きなことなどを活かして、地域で活動しようとしています。例えば厚田の方は、もともと観光の勉強をされている人で、浜益の方は、大企業に勤めていた方ですが、マラソンなどスポーツ系のことに関心があって、スポーツ系のネットワークをお持ちだったりします。しかし、逆に言うとなかなか地域全体を上手く組織できないこともありえます。自分の関心が薄い所や、あまり知識がない分野では、地域にとってはすごく大事なことで、そこになかなか上手く関われなくて、他の人に応援してもらえたらと思っているのではないのでしょうか。

山田委員：私はかつて学校教育に長くたずさわっていたので気になるのですが、例えば厚田は望来中が無くなり、また学校統合が進んでいきます。浜益はかつて、中学校7校あったのですが、今は1校しかありません。小学校も1校しかない。だからやはり、人口減少にどうやって歯止めをかけるのかという点に絞っていく必要があると思ひます。

木村委員長：当然、佐藤さんや地域課題の話では、そういった話題が出ざるを得ませんし、農業者も漁業者も、自分たちの後継者をどう確保するかということにつながっているのです。そういう課題にアプローチするようなワークショップにするということもありえる訳です。ですので、こちらからこういうことだと押しつけて聞くよりも、地域の皆さんがどういうことを考えて、どういうことに悩んでいるのかをまず聞くことが大事かなと思ひます。今言われた少子化を心配しているという話は当然出てくるでしょうし、子供たちの教育もこれからどうするかという話も出てくるかと思ひます。

どうでしょうか。今日決められなかった方は、後で事務局にご連絡いただき、事務局に調整いただければと思ひます。私と古村委員は、出来る限り各グループがヒアリングをするときは同行したいと考えております。また、行政にも場の設定については色々ご協力いただかなければなりませんので、相談しながら進めたいと思ひます。いずれ適当な時間に各グループの皆さんに集まっていただく機会を作って、グループの代表を決めていただきたいと思いますと思ひます。なるべく皆さんに過大な負担がかからないよう、工夫しながら進めていきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

【委員のグループ分け協議の結果】

- ①「厚田区の地域課題と地域協議会の取り組み」
… 安部委員、加藤委員、山田委員、相馬委員
- ②「地域農業の現状と農業者を中心とする取組、社会教育への期待」
… 大黒委員、大橋委員、富士委員、小條委員
- ③「地域漁業の現状と漁業者を中心とする取組、社会教育への期待」… （後日調整）
- ④「地域おこし協力隊の取り組みと地域おこしの課題」

… 高橋委員、石井委員、(大橋委員)

4. その他

東次長・西山社会教育主事：

1. 「俳句のまち～いしかり～10周年記念作品集」について（ご紹介）
2. 「全道社会教育主事等研修会（全国社会教育委員連合 坂本常務理事基調講演）について」（ご案内）
3. 第59回全国社会教育研究大会（札幌大会）実行委員会について（口頭報告）
4. サイエンスアイ10周年事業について（ご案内）

木村委員長：本日の議事は全てご審議いただきましたが、次回の日程について事務局からお願いします。

西山社会教育主事：次回の会議については、10月頃を一つの目途としておりますが、ワークショップ等の取り組みもございますので、調整しながら皆さまにご連絡申し上げたいと思います。

木村委員長：私の方からも、それぞれのワークショップでどのようなことに取り組んでいただきたいかということ、事務局と相談しながらお伝えしたいと思いますのでよろしく願いいたします。それでは、これで平成27年度第1回社会教育委員の会議を終わりたいと思います。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成27年 6月23日

石狩市社会教育委員の会議 委員長 木村 純